



丹波立杭の将来ビジョン
～ 丹波焼クリエイティブ・バレー構想 ～

2022年12月
丹波立杭陶磁器協同組合





目次

1 はじめに

2 丹波立杭の現況・課題

3 社会の流れを捉えて

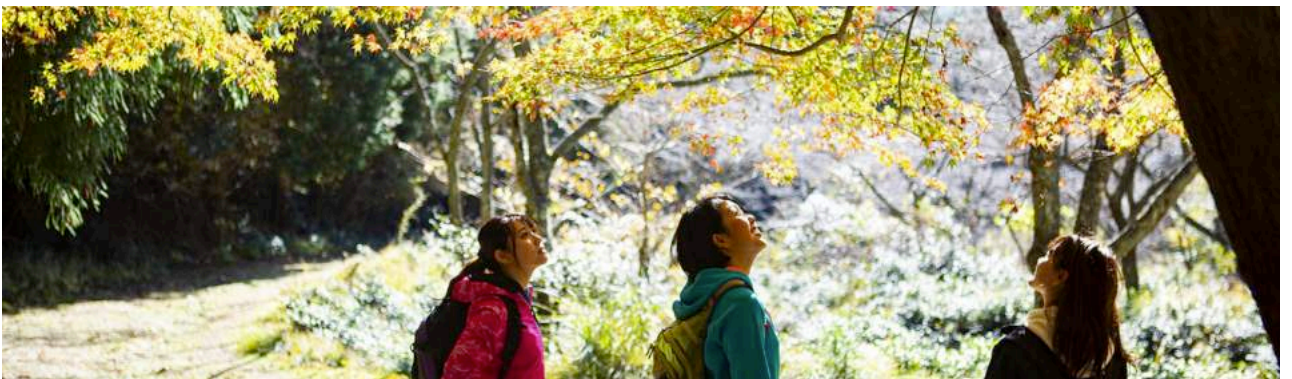
4 将来ビジョンと視点


5 将来ビジョン実現のための当面のアクション

(参考1) 「陶の郷」機能強化のイメージ

(参考2) アクションのアイデア

(付録) 全組合員のヒアリング結果まとめ





1 はじめに

将来ビジョンの策定趣旨

丹波立杭を次の世代に継承していくため、産地の活性化を図る中長期的な将来ビジョンを策定し、組合員が認識を共有する。

将来ビジョンの位置付け

組合活動の基本的指針として、中長期的な課題や、将来を見通した理想像及びその実現に向けた取組方針について明らかにする。単年度の事業計画に反映するとともに、対外的な連携・協力の方向性を示す。

将来ビジョンの目標期間

概ね2030年を目標に達成するビジョンを定める。

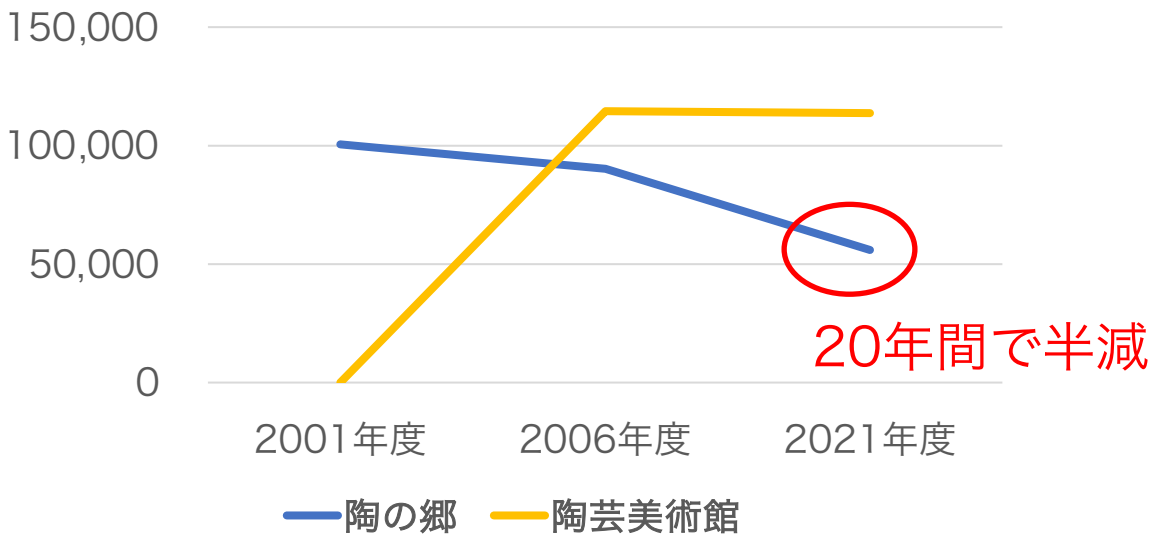
財務の健全性確保

将来ビジョンを実現するために必要な取組については、国等の支援獲得や収益向上による財源確保を計画的に見込み、組合員の負担増加につながらないように実施する。

2 丹波立杭の現況・課題

■ 丹波伝統工芸公園「陶の郷」の魅力不足への対応

入園者・入館者数の比較



- 各窯元への通年での誘客と面的な滞在価値創出
- 組合員窯元数減少の中での組合の持続可能性確保
- 窯元の高齢化、年齢に応じて活躍できる環境づくり
- 学術的・文化的な調査研究・発信体制の確立

これらの課題について、中長期的な視点で方向性について議論する機会と、対策を進める実行体制が不足

3 社会の流れを捉えて

- SNS・オンライン販売の増加
(「陶の郷」の即売場売上も増加傾向)
- 定住人口が減少する中での交流人口の重要性
- こんだ薬師温泉「ぬくもりの郷」の道の駅化
(「2026年開業を目指す」とされている)
- 質の高い豊かな暮らしを求めるトレンド
- 持続可能性(サステナビリティ)の重視
- 無形資産(技能等)、人的資本が価値の源泉
- 所有から利用へ、固定から流動へ、価値の多様化
- アジア、アフリカを中心とした世界の成長の中で、
地球規模での交流を深め、地域の原動力に

2025年大阪・関西万博

「いのち輝く未来社会のデザイン」

約2,800万人の入場者数を想定。兵庫県においても「ひょうごフィールドパビリオン」として五国の「活動の現場そのもの」を地域の人々が主体となって発信し、体験してもらうSDGs体験型の地域プログラムを創出する動き。

これらの流れを捉え、丹波立杭の将来を描く

4 将来ビジョンと視点

次の4つの視点で将来ビジョンを設定

■ 文化的要素を守る

- ・ 自然の作用
- ・ ものづくり精神
- ・ 郷の歴史

- 学術研究・発信
- 「最古の登窯」

“文化と経済
の好循環”

文化を
深める

- 焼き物を究める
- 使い手とつながる
- 認知度を高める
- SNS、Webで拡げる

丹波焼を
売る

“焼き物と言えば丹波焼”

■ 立杭を味わう

- ・ 郷の風景
- ・ 陶工と出会う
- ・ 文化観光
- ・ インバウンド
- ・ 移動環境整備

人が
集う

“立杭全体「陶の郷」”

“陶芸を学び、一生営むなら立杭で”

- 年齢に応じた負担と活躍
- 組合員同士の交流を活発化
- 組合として従事者確保、育成
- 場と仕組みの両面で環境整備

- 「陶の郷」の
拠点機能強化
- 2025年万博



丹波焼クリエイティブ・バレー

自然とともに手仕事の価値を創造し続ける窯郷



5 将来ビジョン実現のための当面のアクション

当面、以下の取組を重点的に実施することを目指す。

■ 「陶の郷」の機能強化

文化庁の支援等も念頭に置きながら、市と共に施設改修等を進め、来訪者の滞在満足度を向上する。入園料等の収入のあり方についても最適化する。

【目標】

入園者の増加 2021年度55,955人 →2027年度84,000人 (1.5倍)
消費額の増加 2021年度4,485万円→2027年度7,600万円 (1.7倍)
※2021年度消費額は、入園料、窯元横丁販売手数料、陶芸教室売上げの合計

■ 2025年大阪・関西万博に向けて

「ひょうごフィールドパビリオン」として兵庫県が募集している「SDGs体験型地域プログラム」に丹波立杭陶磁器協同組合として手を挙げ、プログラム造成を行う。

例えば、世界の子どもたちが立杭に集い、陶工の仕事に触れ、「最古の登窯」の焼成を経験してもらうことで、持続可能な社会を考える上での示唆を提供するとともに世界へのメッセージを発信することなどが考えられる。

■ 「最古の登窯」の管理運営・利活用

丹波焼の文化的な象徴として、組合員の理解の下で、持続可能な利活用のあり方を考えて実行する。また、見学、体験、学習に活用しやすく、日常的に公園や滞在空間として親しめるようなハード面での環境整備も検討する。

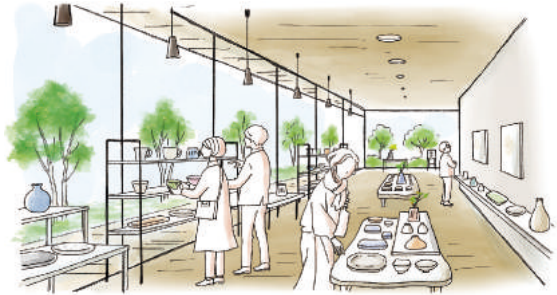
■ 市及び兵庫陶芸美術館とのプロジェクトチーム立上げ

将来ビジョン実現のための中核的なパートナーとして、丹波篠山市及び兵庫陶芸美術館と連携を図る。協力して取り組む内容について議論を深めるとともに、定期的に将来ビジョンの進捗状況について認識を共有するプロジェクトチームを立ち上げる。

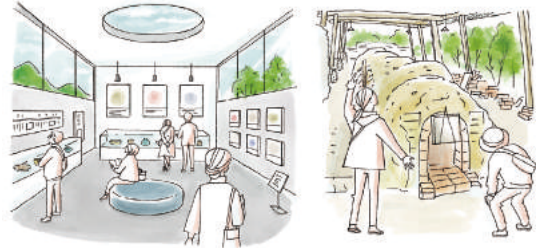
(参考1) 「陶の郷」機能強化のイメージ

機能強化によって、来訪者にどのような価値を提供するのか、より具体的なコンセプトや建物の用途については、幅広く意見を聴いて今後検討するが、例えば以下のようなことが考えられる。

- 焼き物の販売促進のための、
ギャラリースペースの魅力向上



- 文化的なストーリーや、窯元の魅力が伝わる展示・情報発信の充実



- 階段の段差解消等のバリアフリー化、ユニバーサルデザインの採用
(陶工自身の負担軽減のための動線等の実現を含む)



- 丹波焼を活用したカフェ、地元野菜のマルシェ等の気軽に足を運び楽しめる店舗の設営



- 「陶の郷」と美術館をつなぐ森の
ギャラリー回廊の整備



※ 「陶の郷」の新たな呼称を公募し、イメージを刷新することも検討する。

(参考2) アクションのアイデア

■ 「陶の郷」の機能強化

- 他分野のアーティスト等とのコラボイベント等、ギャラリーの企画運営体制の強化
- 丹波焼の技術展示の一環としての工房の新設と若手陶工の受入れ
- 来客者の増加に備えた、建物とフラットな駐車場の拡充整備

■ 「丹波焼を売る」

- ガイドコンシェルジュの体制構築
- 窯業試験場機能（土と釉薬の相性、焼き物のデザインや品質等について窯元の創意工夫をサポートする機能など）の実装整備

■ 「人が集う」

- バンガロー、旧陶芸会館等の遊休資産を利活用した滞在づくり、宿泊施設の整備
- 資産マネジメントや文化観光専門の別会社設立の検討
- 丹波篠山観光協会や一般社団法人ウイズささやまなどの地域の関係主体との連携強化
- アーティスト・イン・レジデンス等の、外部の陶工を受け入れ、産地のすそ野を広げる交流滞在
- まち歩きなどの滞在者が利用するトイレの整備

■ 「多世代が活躍する」

- 組合運営の一部を専門人材等に委ねる
- 年齢等の慣例にとらわれず有意な人材で理事会を構成していく
- 組合に加入する際の条件緩和
- 窯元の工房や設備が遊休資産となった場合に組合が管理し、施設設備を賃貸するような仕組みづくり
- 若手職人が利用できる宿舍等の整備
- 組合員としての資格はないが組合運営の一部に関わることができる準組合員資格の導入
- 組合で雇用し、従事者のワークシェアリング

■ 「文化を深める」

- 景観とイメージの保全に向けた話し合いの場づくり
- 丹波焼を専門とする学識者等が立杭に常駐し、歴史文化的な調査研究や訪問客の作品鑑賞ガイドに従事する体制を充実